

科目名	クラウド概論							
科目名(英)								
単位数	3単位	時間数	56時間	担当者	打越直美・久保山大地			
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験				
対象学科・学年	ネットワーク・セキュリティ科 3年、ネットワーク・セキュリティ科 アドバンスコース 3年							
授業概要	クラウドの特性・仮想化技術の概要を学び、システムの導入・設計手法などの考え方を体系的に学習する。そして、構築と運用管理手順が実際にできるようになる。							
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					クラウド技術に必要な用語について意味が説明できる		
	○					仮想化技術とは何かを説明できる		
		○	○			クラウドの設定、運用管理ができる		
テキスト・教材 参考図書	実務で役立つIT資格CompTIAシリーズ Cloud+ テキスト(TAC出版)							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示			
	1-2	クラウドの概要(クラウドとは何か・クラウドサービスモデル)			身の回りのクラウドサービスについて調べ、まとめる			
	3-4	クラウドの概要(実装モデル・クラウド技術と標準化動向)						
	5-6	仮想化技術(概要・実装)			仮想化技術について調べる			
	7-8	仮想化技術(仮想化マシン・仮想化H/W・仮想マシンの利用)						
	9-10	仮想化技術(ハイパーバイザーの管理とマイグレーション)						
	11-12	ストレージ技術(種類と特徴・接続方法)			ストレージ技術について調べる			
	13-14	ストレージ技術(RAID・ボリュームパーティション・NAS)						
	15-16	ストレージ技術(ファイバチャネルSAN・IP-SAN)						
	17-18	ストレージ技術(仮想化技術とストレージ技術)						
	19-20	クラウドの導入と設計(設計・構築・バックアップシステム)			クラウド構築技術について調べる			
	21	クラウド演習(EC2、VPC)						
	22	クラウド演習(EBS、IAM)						
	23	クラウド演習(RDS、ELB)			EC2、VPC、EBS、IAM、RDS、ELBについてまとめる			
	24	クラウド演習(Web App Deploy、Highly Available)						
	25	クラウド演習(Lambda、CloudFormation)						
	26	クラウド演習(CloudFront、Serverless Architecture)						
	27	クラウド演習(Route53、Enhance Web App)			Lambda、CloudFormation、CloudFront、Route53についてまとめる			
	28	クラウド演習(最終複合課題)						
	評価方法	(1)授業の中で章ごとの確認テストを実施する(全5回)。(2)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		定期試験	◎	○				50%
		確認テスト	○	○	○			40%
	出席状況・授業態度				○		10%	
	履修上の注意							

科目名	高度ネットワーク I A					
科目名(英)						
単位数	9単位	時間数	140時間	担当者	北原聡	
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	IT企業にてネットワーク装置を開発	
対象学科・学年	ネットワーク・セキュリティ科3年					
授業概要	レイヤ2及びレイヤ3スイッチを使用した企業ネットワークの設計・構築と運用管理が出来るようになる					
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	
	○				目標	
	○	○			大規模スイッチドネットワークの設計ができる	
	○	○			大規模スイッチドネットワークの構築ができる	
					大規模スイッチドネットワークの運用管理ができる	
テキスト・教材 参考図書	CISCO CCNP SWITCH教科書(インプレス)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	ネットワークにおけるスイッチの役割			CCNA R&Sのイーサネットの箇所を復習すること	
	2-3	スイッチの基本操作、イーサネットの仕組み			CCNA R&SのVLANの箇所を復習すること	
	4-6	VLANとトランクの実装				
	7-8	VTPの実装				
	9-10	イーサネットリンクの集約				
	11	DHCPの実装			CCNA R&SのSTPの箇所を復習すること	
	13	IEEE802.1D STPの実装				
	16	RSTPの実装				
	18	PVST+, PVRST+の実装				
	20	MSTPの実装				
	22	Cisco STP Toolkitによる保護				
	27	UDLD、FlexLinkの実装				
	29	外部ルータによるVLAN間ルーティング			CCNA R&Sのルーティングの箇所を復習すること	
	31	マルチレイヤースwitchの機能、SVI、ルーテッドポート				
	34	マルチレイヤースwitchによるネットワーク構築				
	38	レイヤ3ポートの集約			CCNA R&Sのネットワーク管理の箇所を復習すること	
	40	管理プロトコルの実装 NTP、SNMP、				
	42	IP SLAの実装				
	44	SPANIによるネットワーク管理				
	46	スイッチの仮想化				
	47	IP標準プロトコルによるファーストホップの冗長化			CCNA R&SのHSRPの箇所を復習すること	
	49	HSRPの実装				
	53	VRRPの実装				
	57	GLBPの実装				
	59	IPv6標準のファーストホップ冗長化				
	61	IPv6用HSRPの実装			CCNA R&Sのセキュリティの箇所を復習すること	
	63	エンタープライズネットワークのセキュリティ				
	64	MACアドレス攻撃と防御				
	66	ストーム制御とAAAの実装				
	68	スプーフィング攻撃と防御				
69	プライベートVLANの実装					
70	シミュレータによる実技試験					
評価方法	(1)授業の中で確認テストを10回実施する。(2)実技試験を実施する。(3)実習内容をレポートとして提出させる。 (4)出席状況と実習の取り組み状況を評価する、以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	確認テスト		◎			
	実技試験		◎	○		
	レポート				◎	
出席状況・授業態度				◎		
履修上の注意						

科目名	高度ネットワークⅡA							
科目名(英)								
単位数	9単位	時間数	140時間	担当者	打越直美			
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	IT企業のエンジニアとして勤務			
対象学科・学年	ネットワーク・セキュリティ科 アドバンスコース 3年							
授業概要	高度なIPアドレッシングとルーティングを使用してシスコルータをネットワークに接続、管理するための方法を体系的に学習する							
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	目標							
	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他			
	○				効率の良いIPアドレッシングの設計ができる			
	○				様々なルーティングプロトコルの違いが説明できる			
	○	○			適切なルーティングプロトコルを使ったネットワークの構築ができる			
	○	○			ネットワークのトラブルシューティング、運用ができる			
テキスト・教材 参考図書	Cisco CCNP ROUTE教科書(インプレス)							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示			
	1	IPアドレッシングとルーティングの基本、復習			CCNA R&Sのアドレッシングについて復習しておくこと			
	2	EIGRP:概要、動作			CCNA R&SのEIGRPについて復習しておくこと			
	3	EIGRP:基本設定、検証						
	4	EIGRP:オプション設定						
	5	EIGRP:WANテクノロジーへの導入						
	6	EIGRP:認証、スケーラビリティ						
	7	EIGRP:名前つきEIGRP						
	8	EIGRP:総合演習、確認テスト			EIGRPの特徴をまとめ、復習しておくこと			
	9	OSPF:概要、動作			CCNA R&SのOSPFについて復習しておくこと			
	10	OSPF:基本設定						
	11	OSPF:検証、OSPFネットワークタイプ						
	12	OSPF:マルチエリアOSPFとLSAタイプ						
	14	OSPF:オプション設定						
	15	OSPF:特別なOSPFエリアの実装						
	17	OSPF:認証、OSPFv3						
	18	OSPF:総合演習、確認テスト			OSPFの特徴をまとめ、復習しておくこと			
	19	ルート再配布とルート制御:ルート再配布			CCNA R&Sの再配布について復習しておくこと			
	21	ルート再配布とルート制御:ルートフィルタリング						
	23	ルート再配布とルート制御:ADによるルート制御						
	25	ルート再配布とルート制御:CEF						
	26	ルート再配布とルート制御:ポリシーベースルーティング						
	28	ルート再配布とルート制御:Cisco IOS IP SLA						
	30	ルート再配布とルート制御:総合演習、確認テスト			ルート再配布の特徴をまとめ、復習しておくこと			
	31	BGP:概要、動作			CCNA R&SのBGPについて復習しておくこと			
	32	BGP:基本設定						
	33	BGP:BGP検証						
	34	BGP:BGP設定の考慮事項						
	36	BGP:ルート集約						
	38	BGP:ルート選択						
	40	BGP:BGPポリシーベースルーティング						
	42	BGP:総合演習、確認テスト			BGPの特徴をまとめ、復習しておくこと			
	43	IPv6:概要、アドレス			CCNA R&SのIPv6について復習しておくこと			
	44	IPv6:アドレスの割り当て						
	45	IPv6:主要なプロトコル						
	47	IPv6:設定と検証						
	49	IPv6:IPv6ルーティング、IPv6ルーティングの設定						
	51	IPv6:IPv6への移行技術						
	53	IPv6:総合演習、確認テスト			IPv6の特徴をまとめ、復習しておくこと			
	54	インターネット接続:ブランチからのインターネット接続			CCNA R&Sのセキュリティについて復習しておくこと			
	55	インターネット接続:VPNの概要			CCNA R&SのWAN技術について復習しておくこと			
	57	インターネット接続:暗号化アルゴリズムとハッシュ関数の基礎						
	59	インターネット接続:IPsec VPNの設定						
	61	インターネット接続:GRE over IPsec						
	63	インターネット接続:DMVPN						
	65	インターネット接続:総合演習、確認テスト			WANの特徴をまとめ、復習しておくこと			
	66	ネットワーク管理:SNMP			CCNA R&Sのネットワーク管理について復習しておくこと			
	67	ネットワーク管理:NetFlow						
	69	ネットワーク管理:総合演習、確認テスト			ネットワーク管理の特徴をまとめ、復習しておくこと			
	70	まとめテスト						
	評価方法	(1)授業の中でオンライン確認テストを9回実施する。(2)実習内容をレポートとして提出させる。 (3)出席状況と実習の取り組み状況を評価する、以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		確認テスト		◎				40%
		レポート				◎		40%
	出席状況・授業態度				◎		20%	
	履修上の注意	出席が47回(全70回)に満たない場合は単位認定できない。 再試験は実施しない。						

科目名	ネットワーク応用技術						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	56時間	担当者	高倉美哉		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	ネットワーク・セキュリティ科3年、ネットワーク・セキュリティ科アドバンスコース3年						
授業概要	近年、携帯電話の普及に加え、M2M、IoTの導入に伴いモバイルシステムの重要度が日に日に増している。そのモバイルシステムを構成する技術、サービスに関する基礎知識を講義を通して学習する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					モバイルシステムのサービスに関する基本用語が説明できる	
	○	○				モバイルシステムのネットワークに関する基本用語、仕組みが説明できる	
	○	○				モバイルシステムのハードウェア・ソフトウェアに関する基本用語、仕組みが説明できる	
	○					モバイルシステムのコンテンツ・セキュリティ・法律に関する基本用語が説明できる	
テキスト・教材 参考図書	モバイル基礎テキスト第6版(RIC)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	スマートフォンの概要(つながる仕組み、歴史、電話番号の仕組み)					
	3-6	サービスと機能(通話、テレビ電話、メール、SNS、アプリ、FeliCa/NFC)					
	7-9	通信・通話の仕組み(セルラー方式、ハンドオーバー、多重化)					
	10-11	通信・通話の仕組み(3G/4G、FMC、ローミング)				通信多重化方式に関するレポート作成	
	12-14	モバイル機器の構造(スマートフォン、タブレット、スマートスピーカー)					
	15-16	モバイル機器の構造(ディスプレイ、UI、カメラ、メモリカード)					
	17-18	OSとソフトウェア(ソフトウェアの構成、OS、アプリの動作の仕組み)					
	19	OSとソフトウェア(代表的なアプリ、文字入力の仕組み、ファイル形式)				モバイル端末OSに関するレポート作成	
	20-21	コンテンツ(ブラウジング型、ダウンロード型、災害用伝言板)					
	22-23	セキュリティ(リスク、機能・サービス、迷惑メール、フィルタリング)					
	24-26	法制度(通信業界の法律、消費者保護法、セキュリティ関連法)					
	27	最新サービス(IoT、5G、プラットフォーム、クラウド)				IoT、5Gに関するレポート作成	
	28	総復習					
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				70%
	レポート		◎		○		30%
履修上の注意							

科目名	技術文書						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	川原ユウジ		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	ネットワーク・セキュリティ科 3年、ネットワーク・セキュリティ科 アドバンスコース 3年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IT技術者が、顧客の要望や課題を把握し、技術的に裏打ちされた最適な提案ができるようになる</li> <li>・クライアントに伝わる文章表現力を磨くことができる</li> <li>・ビジネスを進める上で、論理的に物事を考え、実行する力が身に付く</li> </ul>						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					自分のライティングスキルをチェックし、ビジネスに通用する文書を書けるようになる	
		○				論理的に物事を考えることができる	
		○				伝わる作業手順書、障害報告書、社外メールを書くことができる	
テキスト・教材 参考図書	技術者のためのテクニカルライティング入門講座(翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	テクニカルライティングとは(授業導入)				授業内容に係るレポート作成および提出	
	2	第1章 ロジカルライティング×テクニカルライティング活用の基礎知識					
	3	第1章 ロジカルライティング×テクニカルライティング活用の基礎知識				授業内容に係るレポート作成および提出	
	4	第2章 わかりやすく、簡潔な文章を書くテクニック					
	5	第2章 わかりやすく、簡潔な文章を書くテクニック				授業内容に係るレポート作成および提出	
	6	第3章 読み手に伝わる文章を書くテクニック					
	7	第3章 読み手に伝わる文章を書くテクニック				授業内容に係るレポート作成および提出	
	8	第4章 読みやすさを高める文章フォーマット～文章、表記のルール～				授業内容に係るレポート作成および提出	
	9	第5章 実践編 ユーザーマニュアル・取扱説明書(作業手順書)					
	10	第5章 実践編 ユーザーマニュアル・取扱説明書(作業手順書)				授業内容に係るレポート作成および提出	
	11	第6章 実践編 提案書				授業内容に係るレポート作成および提出	
	12	第7章 実践編 障害報告書					
	13	第7章 実践編 障害報告書				授業内容に係るレポート作成および提出	
	14	第8章 実践編 社外メール文				授業内容に係るレポート作成および提出	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	小テスト	○					10%
	宿題・レポート	○	◎		◎		10%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意							

科目名	サーバセキュリティ演習						
科目名(英)							
単位数	5単位	時間数	84時間	担当者	久保山大地		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	ネットワーク・セキュリティ科3年、ネットワーク・セキュリティ科アドバンスコース3年						
授業概要	インターネットで使用されることが多いLinuxサーバにおいて、セキュリティの導入は必須である。Linuxを使用したセキュアなネットワークサーバの導入、設定、運用、トラブルシューティングに必要な技術を講義と演習を通して学習する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				インターネットサーバのセキュリティに関する基本用語、仕組みを説明できる。	
	○	○				インターネットサーバのセキュリティに関する基本設定、動作確認ができる。	
	○	○				インターネットサーバのセキュリティに関するトラブルシューティングができる。	
テキスト・教材 参考図書	Linuxサーバセキュリティ徹底入門(翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-3	インストール、ネットワークの初期設定					
	4-6	ユーザ管理(ユーザ管理、パスワード管理、sudo)					
	7-9	スーパーサーバ(xinetd、TCP Wrapper)					
	10-12	ファイルシステムのセキュリティ(パーミッション、SUID/SGID、ステイックイ、umask、ACL、GPG)					
	13-15	SSHのセキュリティ(共通鍵、公開鍵)					
	16-18	ネットワークのセキュリティ(ping、traceroute、nslookup、iptables)					
	19-21	SELinux(タイプ、ドメイン、ユーザ、ロール、ラベル、セキュリティコンテキスト)					
	22-24	システムログの管理(rsyslog、logwatch、swatch)					
	25-27	セキュリティチェックと侵入検知(PW解析、バックドア、nmap、tcpdump、tripwire、Rootkit Hunter、fail2ban)					
	28-30	サーバセキュリティ(BINDインストール、マスタ・スレーブサーバ構築)					
	31-33	サーバセキュリティ(TSIGゾーン転送、BINDバージョン隠蔽)					
	34-36	サーバセキュリティ(Apacheインストール、アクセス制限、CGIの禁止、ユーザ領域公開、認証、SSL、プロキシ)					
	37-39	サーバセキュリティ(Postfixインストール、ドメイン指定、リレーの許可・禁止、エイリアス、認証、暗号化)					
40-42	サーバセキュリティ(vsftpdインストール、vsftpdユーザ制限、IPアドレス・ユーザ・ディレクトリ制限、仮想ユーザ)						
評価方法	(1)オンライン試験を数回実施する。(2)演習課題のエビデンスを評価する。(3)授業の中で課題を指示する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	オンライン試験	○	◎				50%
	演習課題		◎	○			40%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	卒業制作A						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	打越直美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	ネットワーク・セキュリティ科 3年、ネットワーク・セキュリティ科 アドバンスコース 3年						
授業概要	卒業制作のテーマ選定を行う。企画の実現に必要な技術調査を行う。企画書を作成した後、レビューを繰り返し、成果物として企画書をまとめる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					企画の手順と発想手法を活用した発想グループワークができる。	
	○					企画に含まれる技術要素の調査を行い、実現可能性を検討することができる。	
	○					企画書を作成することができる。	
				○			企画のプレゼンテーションができる。
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ネットワーク業界の動向調査					
	2	企画作成のチーム分け					
	3	テーマ選定に向けた目的の整理					
	4	テーマ選定に向けた実現方法調査				レビューを受ける準備をすること	
	5	テーマの選定と企画書作成				中間レビュー1の指摘をレポートにまとめること	
	6	企画書作成					
	7	発表準備					
	8	企画の発表、レビュー				中間レビュー2の指摘をレポートにまとめること	
	9	企画書作成					
	10	発表準備					
	11	企画の発表、レビュー					
	12	企画書の完成				企画プレゼンテーションの準備をすること	
	13	作業量の見積り					
	14	作業スケジュール作成					
評価方法	(1)企画書を作成する。(2)企画内容を発表する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	成果物		◎				50%
	発表		◎				30%
	受講状況				○		20%
履修上の注意	出席が10回(全14回)に満たない場合は単位認定できない。 再試験は実施しない。						

科目名	ビジネスマナー						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	玉置万理子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	ネットワーク・セキュリティ科3年、ネットワーク・セキュリティ科アドバンスコース3年						
授業概要	ビジネスにおいて、スムーズに仕事をするためには、相手を尊重する気持ち・思いやりが大切である。本授業はビジネス実務のなかでも、ビジネスの基本マナーができることを目標としている。特に、言葉使い(敬語)、目標と仕事の進め方(PDCA)をマスターする。名刺交換・電話応対・接客応対については、演習を行う。また、新聞やインターネットにより、経済・ニュースに興味をもたせ意見を発表できるようにする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				ビジネスの言葉使いができる。	
	○	○				ビジネス文書の書き方・慶事・弔事・マナーを実践できる。	
			○			名刺交換・挨拶の仕方を実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	ビジネスマナー基本テキスト キャリア総研(日本能率協会マネージメントセンター)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ビジネスマナーの基本(第一印象について)			第1章p3~p15までを読み、ビジネスマナーの基本を理解しておくこと。		
	2	CSとビジネスマナーの言葉使い			第1章p16~p20までを読み、CSのことを理解しておくこと。		
	3	敬語の使い方と好ましいお辞儀の仕方			第1章p21~p28理解度チェックまでしておくこと。		
	4	敬語表現の使い方練習					
	5	目標と仕事の進め方(PDCA)と社内のビジネスマナーとルール			第2章p30~p47を読み、理解しておくこと。		
	6	指示・命令の受け方と会議に出席する時の心構え			第2章P48~p64理解度チェックまでしておくこと。		
	7	電話のマナーと電話応対			第3章p66~p79まで読み、電話応対の仕方を理解しておくこと。		
	8	電話のマナーと電話応対					
	9	電話のマナーと電話応対			第3章p82~p83理解度チェックまでしておくこと。		
	10	接客応対のマナーと名刺交換			第4章p86~108まで読み、接客のマナーを理解しておくこと。		
	11	接客応対のマナーと名刺交換			第4章p113~p114理解度チェックまでしておくこと。		
	12	ビジネス文書の基本マナー(封筒・葉書きの書き方)			第5章p116~p133まで読み、ビジネス文書の書き方を理解しておくこと。		
	13	慶事・弔事のマナー			第6章p140~p149まで読み、慶事・弔事理解しておくこと。		
	14	贈答・会食マナーと授業復習			第6章p150~p162まで読み、贈答・会食マナーを理解しておくこと。		
評価方法	(1)授業の中でプレゼンと演習を実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	宿題・レポート		○				10%
	発表・演習			◎			30%
履修上の注意	社会人になる心得として、ビジネスマナーの基本の習得と、新聞・ニュース・インターネットにより世界の経済とニュースに興味を持つよう心掛ける。						



科目名	就職実務Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	打越直美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	ネットワーク・セキュリティ科 3年、ネットワーク・セキュリティ科 アドバンスコース 3年						
授業概要	IT業界で仕事が円滑に行えるように、IT業界の構造や仕組み、新しい流れを詳しく知る						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					IT業界の特徴を説明できる	
			○			IT業界で働く心構えができる	
テキスト・教材 参考図書	世界一わかりやすいIT業界のしくみとながれ(ソシム)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	IT業界の基礎知識【IT業界の基礎知識】					
	2	IT業界のサービスと顧客【IT業界のサービス】					
	3	IT業界のサービスと顧客【IT業界の顧客】					
	4	IT業界のサービスと顧客【IT業界の関係事業者】				「IT業界のサービスと顧客」の講義内容についてレポートを作成すること	
	5	IT事業者のしくみ【IT事業者の組織と部門】					
	6	IT事業者のしくみ【IT事業者の売上と利益】					
	7	IT事業者のしくみ【IT事業者の職種とキャリア】				「IT事業者のしくみ」の講義内容についてレポートを作成すること	
	8	システムの提案と要件定義【システムの提案】					
	9	システムの提案と要件定義【システムの見積り】					
	10	システムの提案と要件定義【システムの要件定義】				「システムの提案と要件定義」の講義内容についてレポートを作成すること	
	11	IT業界の新しいながれ【IT業界の新しい事業】					
	12	IT業界の新しいながれ【IT業界の新しい競合】					
	13	IT業界の新しいながれ【IT業界の新しい問題】				「IT業界の新しいながれ」の講義内容についてレポートを作成すること	
	14	IT業界のこれから【IT業界のこれから】					
評価方法	成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート		◎				60%
	受講状況				◎		40%
履修上の注意	出席が10回(全14回)に満たない場合は単位認定できない。 再試験は実施しない。						

科目名	情報処理試験春期対策ⅢA						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	高倉美哉		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	6	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	11	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	16	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意	総合評価が不合格の場合でも、再試験は実施しない。						

科目名	情報処理試験秋期対策ⅢA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	32時間	担当者	高倉美哉		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意	総合評価が不合格の場合でも、再試験は実施しない。						